

PAPER

かみと現代美術

A Quest into the World "with" PAPER

安部典子
AMBE noriko

ウチダリナ
UCHIDA lina

太田三郎
OTA saburo

小野田賢三 / 照屋勇賢
ONODA kenzo / TERUYA yuken

播磨みどり
HARIMA midori

半谷学
HANGAI manabu

半澤友美
HANZAWA tomomi

渡辺英司
WATANABE eiji

2022/10/1 sat. — 12/18 sun.

熊本市現代美術館

熊本市現代美術館 ギャラリーI・II 開館時間 / 10:00-20:00 (入場は19:30まで) 火曜休館

このたび、熊本市現代美術館では「PAPER：かみと現代美術」を開催いたします。

本展は、私たちの暮らしに欠かせない「紙」を重要な素材として見出し、独自の表現を追求している現代アーティスト 9 名を紹介する展覧会です。

つきましては同展について広くご紹介いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

企画概要

今から 2000 年以上も前に発明されて以来、私たちの生活のあらゆる場面に浸透した必要不可欠な素材、「紙」。情報の記録や意思伝達をはじめ、ものを包む、液体を拭う、光をとおす・・・など、その機能と役割は枚挙にいとまがありません。「紙」の幅広い活躍は、しなやかで応用しやすい性質や特長によるものですが、そこには人間が与えた何らかの操作や社会の中での機能が伴っています。「紙」になるまでも、そして「紙」となってからも、人とのかかわりなしには存在しない素材なのです。

本展ではそのような「紙」「紙製品」に注目し、独自の表現へと昇華させた現代アーティストをご紹介します。彼らの作品は、「紙の上に」ではなく、「紙とともに」アイデアを視覚化したものと言えます。誰にとっても馴染みのある「紙」をとおして、本展のアーティストたちが投げかける問いは、私たちを取り巻く世界や価値観を様々な角度から照らし出してくれることでしょう。

展覧会の特徴

「紙」をとおして見つめる私たちの世界のあり方

私たちにとって紙は、気にも留めることのないほど身近であり、その種類や用途を一つ一つ挙げる方が難しいかもしれません。種類豊富で加工や応用の幅が広い紙は、アーティストたちも魅了し、表現の可能性を広げてきました。本展では、紙そのものを素材として扱い、独自のコンセプトを見出だしている作家と、世の中に普及している紙製品や紙媒体を扱う作家をご紹介します。若手からベテランまでの9名の出品作家たちは、それぞれの問題や考えを「紙とともに」視覚化した作品を展示します。誰にとっても身近な「紙」に注目する本展は、私たちの日常や価値観について考えをめぐらす場となるでしょう。

熊本県内でのリサーチを元に作られた作品を含む新作を多数発表

半谷学と安部典子は熊本県内でのリサーチを元に新作を制作。半谷は、熊本県の特産品である「い草」に注目し、畳の製造工程で生じるい草の端材からオリジナルの紙を作って、大規模なインスタレーションを展開します。安部は、阿蘇の水源からインスピレーションを受けた作品を発表します。そのほかのアーティストも、本展を契機に新たなアイデアやコンセプトのもとで制作に取り組み、多数の意欲的な新作が発表される予定です。

展示室内に紙の森が出現！新聞紙でできた「くしゃくしゃおぼけ」

「くしゃくしゃおぼけ」とは、新聞紙をくしゃくしゃにまとめてできた不思議な遊具です。館内に出現する「くしゃくしゃおぼけ」の素材は熊本県民に馴染み深い熊本日日新聞の古新聞。読んだり、乗ったり、音を鳴らしたり・・・ふれあい方は無限大！長時間触るとインクが手についてしまうのも新聞紙ならではの特徴です。素材としての新聞紙との出会いをお楽しみください。

出品作家

安部典子、ウチダリナ、太田三郎、小野田賢三 / 照屋勇賢、播磨みどり、
半谷学、半澤友美、渡辺英司 [五十音順]

展示構成

出品作家紹介

半谷学 HANGAI Manabu | 1963年北海道生まれ、群馬県在住。

半谷学は、世の中の不要物や大量廃棄物のような「困りもの」にアプローチし、独自の「紙」にして作品を制作するスタイルで知られています。半谷の作品は、社会や環境について目を向けるきっかけを与えるとともに、「紙にする」ことによって、柔軟な発想や新たな可能性が得られることも示唆します。本展では、熊本県の特産品である畳の生産工程で生じる、「い草」の端材から紙を作り、その「い草」の紙と、忘れ物の傘による大規模なインスタレーションを発表します。



半谷学《さしがさばな》2000年



半谷学《さしがさばな》2022年

半澤友美 HANZAWA Tomomi | 1988年栃木県生まれ、東京都在住。

半澤友美は、溶いたパルプをスポイトで吸い上げ、それを一滴ずつ垂らすことで平面もしくは立体作品を制作しています。実用的な紙を作るための作業とは異なるものの、紙の生成過程そのものが自身の表現行為と一致しているという点が極めてユニークです。また今回、叩いて作る「樹皮紙」にヒントを得た作品にも挑戦します。「紙に成っていく」プロセスとそこに伴う繰り返される動作・行為には、「記憶」や「時間」、「痕跡」といったテーマが重ねられます。



半澤友美《The Histories of the Self》2019年
photo: Keizo Kioku

半澤友美《Traces》2022年
photo: Mikiro Tamai

展示構成

出品作家紹介

安部典子 AMBE Noriko | 1967年埼玉県生まれ、埼玉県在住。

安部典子は、紙を「カットする」アーティストです。木の年輪、地層、洞窟といったものを連想させる安部の作品は、一枚の紙にフリーハンドによる線やかたちのカットイングを施し、何百枚と重ねることで作られています。統一規格の紙から生み出される有機的なかたち、そこに内在する時間。「時間と自然と人間のシンクロニシティ」というテーマを具現化しようとする安部の作品は、二次元と三次元の間を、そして「無い」かたちと「有る」かたちとの間を揺れ動きながら、観る者のイマジネーションを様々に刺激します。



安部典子《地のかけら—A Piece of Flat Globe Vol.34》
2013年 photo : Keizo Kioku



安部典子《Shadows and synchronicity》2019年
photo : Kenryou Gu

ウチダリナ UCHIDA Lina | 1990年東京都生まれ、東京都在住。

ウチダリナは和紙を素材とする作家です。型取りによる紙の立体物、熱を与える（＝焦がす）ことで色の濃淡を生じさせた独自の「彩色」など、和紙に向き合う中で獲得した手法で制作しています。その作品には、紙の薄くて軽い、儂げな印象と、しなやかで可塑性に富む、タフな性質の両方を見て取ることができるでしょう。また、紙一枚が接している／引き受けている外と内の世界が、蛾の翅や人間の皮膚といったモチーフともリンクして、境界のありようについて問いを投げかけます。



ウチダリナ《Rebirth II》2018年
photo: comuramai



ウチダリナ《バルタザールとメルヒオール》2018年

展示構成

出品作家紹介

播磨みどり HARIMA Midori | 1976年神奈川県生まれ、神奈川県在住。

播磨みどりは、コンセプチュアルに版画と向き合っているアーティストです。これまで、その性質や制作のプロセス、社会的な機能や意味にフォーカスすることで、版画や印刷物を多角的に考察した作品を手がけてきました。本展では版画に対する関心の延長線上に、版画にとって欠かせない素材である「紙」に光を当てることを試みます。播磨の作品は、紙を使うことの必然性や意味について、そして紙そのものについての再考を促します。



播磨みどり《森を見て木を見ず》制作風景 2022年



播磨みどり《This is a Mirror》制作風景 2022年

太田三郎 OTA Saburo | 1950年山形県生まれ、岡山県在住。

太田三郎は、切手を使った作品で広く知られているアーティストです。切手以外にもハガキや新聞といった身近な紙製品、紙媒体にもユニークな視線を投げ、時事的なテーマを取り込みながら、現代社会の一端を示唆する優れた作品を発表してきました。本展では、新型コロナウイルス感染症によって亡くなった人の数と同数の切手による《Bird Net—世界はつながっている「献花」》、東日本大震災の起こった2011年の新聞をハガキ大に漉いた作品《Papers 2011》などをご紹介します。



太田三郎《Bird Net—世界はつながっている「献花」》2022年



太田三郎《Bird Net—世界はつながっている「献花」》2022年

展示構成

出品作家紹介

小野田賢三 ONODA Kenzo | 1961年群馬県生まれ、群馬県在住。

照屋勇賢 TERUYA Yuken | 1973年沖縄県生まれ、ベルリン在住。

照屋勇賢は、ショッピングバッグやトイレットペーパーの芯など、主に工業製品としての紙を用いた作品で知られるアーティストです。その作品には、ユーモアとともに、見過ごされがちな問題や物事の本質を浮かび上がらせる力があります。本展では、照屋が2011年3月12日の『上毛新聞』第一面に植物の芽を立ち上がらせた《Minding My Own Business》を、小野田賢三が持ち歩いて国内や欧州の人々とコミュニケーションを図り、官製ハガキを「折る」ことを通して、彼らそして照屋との応答を試みた「アクション」ともいべき《Pilgrim》をご紹介します。新聞とハガキ、ふたつの紙媒体の相互関係とも言えるこの「アクション」は、約10年緩やかに行われ、またこれからも続けられていきます。



左：
小野田賢三 ref. 照屋勇賢
《Pilgrim》ベルリンにて 2011年

右：
小野田賢三 ref. 照屋勇賢
《Pilgrim》女川にて 2022年

渡辺英司 WATANABE Eiji | 1961年愛知県生まれ、愛知県在住。

身近な素材に手を加え、人間の振る舞いや思考を明らかにする渡辺英司。その代表作、《名称の庭》と《蝶瞰図》は、図鑑に印刷された植物や生物を切り抜いて「解放」させた作品です。人間は自然を知るために、「名前を与える」ことをしてきました。また、紙が記録や伝達といった役割を担ってきたことを鑑みれば、図鑑や百科事典は、そのような人間の欲望とそれに突き動かされた行為を代表するものと言えます。渡辺の作品は、紙という器の中に見えてくる人間の姿を浮き彫りにします。



渡辺英司《蝶瞰図》うらわ美術館インスタレーション
2010年 photo: Norihiro Ueno



渡辺英司《名称の庭》箱根彫刻の森美術館インスタレーション
2014年

くしゃくしゃおぼけ

「くしゃくしゃおぼけ」は、ねじった2枚重の新聞紙を組み合わせてロープで縛り、天井から吊るした大型の遊具です。大小さまざまなくしゃくしゃおぼけが集まって、まるで新聞紙の森のよう！ブランコのように乗ったり、大きなおぼけに隠れたり、触って音を鳴らしたり・・・身近な紙素材の代表である新聞紙を通して、自由に遊び方を見出すことができるスペースが登場します。



PLAY!PARK

*「くしゃくしゃおぼけ」はPLAY! PARKと東京都市大学手塚研究室との共同開発で発案されました。

**10月の「新聞週間」に合わせて、新聞紙で遊ぶワークショップも開催予定。(詳細は9月中旬に発表)

関連イベント

イベントは事前申込制(先着順)

です。メール・電話で受け付けを行います。

メールでお申込の場合は、参加したいイベント名を件名とし、本文に以下を明記の上、美術館代表アドレス

gamadas@camk.or.jp

まで送信してください。

①氏名

②電話番号

③参加希望日

④子どもの年齢

(小学3年生以下の場合)

*小学3年生以下のお子様の参加には保護者の同伴が必要です。

アーティストトーク

出品作家が自身の作品や制作についてお話しします。 *海外在住のウチダリナ、照屋勇賢は欠席。

●日 時：10月1日(土) 13:00～14:30

●会 場：ギャラリーI・II

●定 員：20名

●参加費：要観覧券チケット

オープニング・ワークショップ

「たたいて紙作り!? 樹皮紙(じゅひし)に挑戦！」

樹皮を「叩く」ことで薄いシート状にした「樹皮紙」が、古来より世界のさまざまな国で作られてきました。現在も、インドネシアやメキシコなどで作られています。「漉く」とは違う紙作りを体験します。

●日 時：10月2日(日) 13:00～14:30

●会 場：アートロフト(熊本市現代美術館内)

●講 師：半澤友美(出品作家)

●定 員：15名

●参加費：300円/人



クロージング・ワークショップ

「さしがさばなワークショップ — 「い草」の紙で灯の花を咲かそう—

紙でランプシェードを作ります。紙は、熊本県産の量の製造工程で出る「い草」の端材が原料です。不要なもの、捨てられてしまうものが世界に一つだけのステキな作品に変身します。

●日 時：①12月17日(土) 13:00～16:00 ②12月18日(日) 10:15～13:15

●会 場：ホームギャラリー(熊本市現代美術館内)

●講 師：半谷学(出品作家)

●定 員：各回20名

●参加費：300円/人

●持ち物：現在は要らなくなりましたが、思い出があって捨てられない小物(玩具、ボタン、写真、小石など)

展覧会概要

タイトル：PAPER：かみと現代美術

会 期：2022年10月1日（土）～12月18日（日） 68日間

会 場：熊本市現代美術館ギャラリーⅠ・Ⅱ（熊本市中央区上通町2-3 びふれす熊日会館3階）

開館時間：10:00～20:00（入場は19:30まで） 火曜休館

観覧料金：一般¥1,100（¥900）／シニア（65歳以上）¥900（¥700）／学生¥600（¥500）

中学生以下無料

*各種障害者手帳をご提示の方とその付き添い1名は無料

**（ ）は前売、団体、電車・バス1日券をお持ちの方ほか 割引料金

***10月12日（水）は開館記念日のため入場無料

【チケット取扱い】

熊本市現代美術館、イープラス（e+）、ローソンチケット [Lコード番号：84093]、

セブンチケット [セブンコード：096-432]

主 催：熊本市現代美術館（熊本市、公益財団法人熊本市美術文化振興財団）、
熊本日日新聞社

助 成：芸術文化振興基金 

後 援：熊本県／熊本県教育委員会／熊本市教育委員会／熊本県文化協会／
熊本県美術家連盟／熊本国際観光コンベンション協会／NHK 熊本放送局／
J:COM 熊本／エフエム熊本／FM791

お問い合わせ

熊本市現代美術館

学芸担当：岩崎 広報担当：市下

〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 びふれす熊日会館3階

TEL: 096-278-7500 FAX: 096-359-7892

Email: gamadas@camk.or.jp URL: <https://www.camk.jp/>



美術館入口（びふれす熊日会館3階）まで、通町筋電停
又はバス停から徒歩1分です。電車通り側歩道から、エ
スカレーター又はエレベーターをご利用ください。

広報用画像について

PRESS RELEASE

熊本市現代美術館

2022.08.18

広報用画像をご用意しております。
下記内容をメールでお知らせください。
広報担当からご連絡いたします。

- ① 掲載媒体
- ② 希望画像 No.
- ③ ご担当者様のお名前、ご連絡先
(メールアドレス等)

【使用に際しての注意事項】

*使用目的は、本展のご紹介に限ります。本展終了後の使用は出来ません。ご使用後は（掲載、未掲載に関わらず）画像データを削除してください。第三者への譲渡は禁止します。

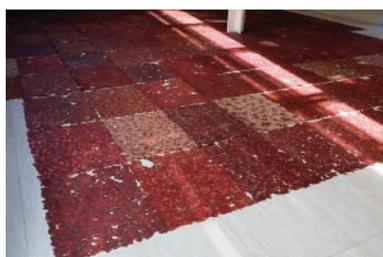
*作品キャプション・クレジットを明記してください。
*トリミング、部分使用、文字等を重ねての使用はできません。

*掲載紙・誌、同録 DVD 等を一部寄贈してください。
(WEB 媒体の場合は URL をお知らせください)



1
半谷学
《さしがさばな》
2000年

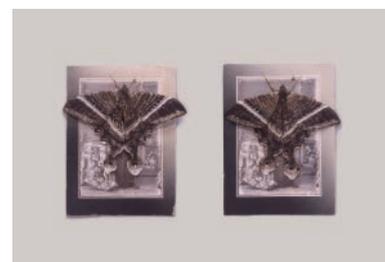
2
半谷学
《さしがさばな》
2022年



3
半澤友美
《The Histories of the Self》
2019年
photo : Keizo Kioku

4
半澤友美
《Traces》
2022年
photo : Mikiro Tamai

5
ウチダリナ
《Rebirth II》
2018年
photo : comuramai



6
安部典子
《Shadows and synchronicity》
2019年
photo : Kenryou Gu

7
安部典子
《地のかげら—A Piece of Flat Globe Vol.34》
2013年
photo : Keizo Kioku

8
ウチダリナ
《ハルタザールとメルヒオール》
2018年



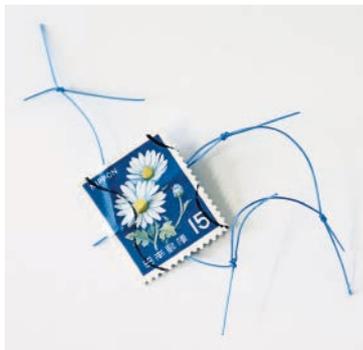
9
播磨みどり
《森を見て木を見ず》制作風景
2022年



10
播磨みどり
《This is a Mirror》制作風景
2022年



11
小野田賢三 ref. 照屋勇賢
《Pilgrim》ベルリンにて
2011年



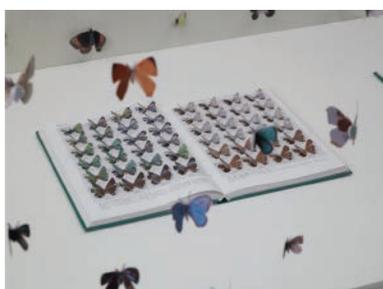
12
太田三郎
《Bird Net—世界はつながっている「献花」》
2022年



13
太田三郎
《Bird Net—世界はつながっている「献花」》
2022年



14
小野田賢三 ref. 照屋勇賢
《Pilgrim》女川にて
2022年



15
渡辺英司
《蝶戯図》
うらわ美術館インスタレーション
2010年
photo : Norihiro Ueno



16
渡辺英司
《名称の庭》
箱根彫刻の森美術館インスタレーション
2014年



17
PLAY!PARK
「くしゃくしゃおぼけ」